

1 学校の重点目標

- ・ 人権尊重の精神に立ち、心と心が触れ合う中で、一人一人の個性が存分に輝く教育を目指す。
- ・ 自ら学ぶ意欲を持ち、社会の変化に主体的に対応する能力を培う教育を目指す。
- ・ 伝統ある教育風土を生かし、「知・徳・体」の調和のとれた全人教育を推進し、国際感覚を身に付け、自立と社会貢献への基礎を育てる教育を目指す。

2 課題と改善策

	評価項目	評価	評価結果と改善方策
心の教育	1 考え・議論する道徳の授業実践	2.9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進んであいさつができるように、今後も称賛や継続的な声かけをしていく。 ・ 人権週間や読書月間などで、子どもたちに「今週は特に～」と意識付けができた。
	2 一学校一改革「心のこもったあいさつ」	2.7	
	3 人権教育の充実	2.9	
	4 読書指導（質・量）の充実	3.1	
学習指導	1 授業内容・指導法の改善	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習のしつけでは、机上配置や2着1黙を定着させていく。 ・ 計算力アップのために継続的な指導を行い速く、正確に解く効果が見られた。
	2 基本的な学習習慣の形成	2.9	
	3 外国語活動・外国語科の充実	2.9	
生徒指導	1 自己肯定感を高める学年・学級経営	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「学校楽しい」とを全学年で実施し、児童の実態把握に努め、教育相談に活用した。 ・ 就学指導において、先を見通した指導が今まで以上に求められるため、支援委員会等で早期に共通理解を図る。
	2 組織的な対応（いじめ防止を含む）	3.2	
	3 教育相談の充実	3.2	
	4 一人一人のニーズに応じた特別支援教育	3.1	
保健指導	1 教科体育の充実・体力づくりの推進	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ マラソンカード、なわとびカードを用いて積極的な体力づくりができた。 ・ 廊下歩行、教室での過ごし方を含め、危険予知能力を自分判断できる指導を行う。
	2 安全指導（危険予知能力の育成）	2.8	
	3 環境衛生面の充実（清掃指導等）	2.8	
	4 食育・給食指導の充実	3.2	
その他	1 地域素材の活用（学校支援ボランティア）	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員研修でタブレットの活用を数回行った。今後も授業実践を積み重ねたい。 ・ 小中連携は伊敷中、玉江小と密に連絡を取り、共通実践事項を毎学期確認できた。 ・ 全国学力テを職員で解き、授業改善について学年で考える研修ができた。
	2 環境教育の取組（エコ日記応募等）	2.9	
	3 学習効果を上げる ICT 機器の活用	3.1	
	4 校内研修・外部研修会への取組	2.6	
	5 小中連携・幼保小連携の充実	2.9	
	6 業務の簡素化・効率化を図る業務改善	2.9	

3 次年度に向けての取組

- 授業力を向上させるとともに、落ち着かない児童に対する支援や生活指導の工夫を全職員で協議して実践していく。（タブレットを活用した研修）
- 生徒指導事案について毎週連絡会を設け、組織で対応することができた。今後も報・連・相を密に行い、早期発見・早期対応に全職員で取り組む。
- 新型コロナウイルス感染拡大を受け、校時変更や分散授業等の対応を行った。今後の様子を見ながらまた、保護者への周知を迅速に行う。